

## 【かけらの努力でも】

千葉県

光英VERITAS中学校 二年

吉野

吉野

結恵香

春休みに母とホームセンターへ行った。災害時に備えて水のペットボトルを買うためだ。最低でも一日一人当たり三リットルの水が必要とのこと、父、母、姉、私の四人家族の分として二リットルのペットボトル六本入りケースを三箱買ってきた。

幸い私は、断水という状況に遭ったことはまだない。使いたい時に思うように水を使えないという事態は正直あまり想像できなかった。勿論、SDGsの六番目の目標として「安全な水とトイレを世界中に」が掲げられていることは知っている。きれいで安全な水が使えない人々は、世界にはまだたくさんいるのだ。衛生的な水の環境が整ってないことで、感染症の原因にもなり、また「水くみ」のために多くの時間を費やさなければならぬという問題も含んでいる。日本の様に上下水道の設備が整えられていて、当たり前前に安全な水が使えるということに私達はもっと感謝すべきだろう。

私はふと「災害が起きなければ、日本の水は大丈夫なのだろうか」と思い、少し不安になってきた。そこで、日本の水事情を調べてみると驚くべきことがわかったのだ。

日本の水道施設・設備は老朽化が進行しているため、水道管を更新する必要がある箇所が多数存在しているという。だが、更新は人手や財源の問題があり、あまり進んでいないのが現状だ。近年の水道料金の値上がりにもこの様な背景があったことを初めて知った。水道料金の値上がりは私達にとって喜ばしいことではないが、今まで同様、安全な水を使える様にするためには料金の値上がりにも理解を示さなければならぬと思う。「水道の水はタダ」ではなかった。やがてレストランの水もサービスでもらえなくなるかもしれない。水を大事に考えることは日本にとっても大切なことだったのだ。

私は今、水のために私ができることを考えている。今までは汚れたお

皿をそのまま流しに置いて水を流していたが、まず汚れをふき取るようにする。これにより節水ができ、また下水の汚れも少なくなることが可能となる。私はもともとシャンプーをたくさん泡だたさせて髪を洗うのが好きだったが、それをワンプッシュの量と決めて使いすぎないようにした。すると髪をすすぐ時間がこれまでより短く済むようになった。恐らく、流す際に使う水の量も減ったし、汚水も減っているに違いない。また、顔や髪を洗う際もこまめに蛇口をしめるようにした。私の家の給湯器には使ったお湯の量が表示される仕組みになっていたので、一日の終わりに確認してみたところ、確実に以前の量より少なくなっていた。この三つを私は実践し、最初は不便に感じる部分もあったが、慣れるとそれほど苦もなくできるようになった。なによりも、実際に行動に移し、また手応えも感じ、充実感を得ることができたと思う。

苦勞してホームセンターで購入してきたペットボトルはあくまで飲用や食用の分だけの量であり、三箱あっても四人家族のたった三日分しかならない。日々の生活では、トイレその他にももっと様々な場面で水を利用してはいる。今回、私たちが日々大量の水を使っていることを、改めて意識することができた。

私の努力は本当にわずかなかけらかもしれない。だがしかし、みんな協力し合うことで大きな力となり、私達の手で水を守っていくことに繋がると信じて続けていく。